

第4回 車両基地跡地広域交流拠点施設整備検討会 意見対応表

R7.6.30

意見内容			対応案		
P3	1上位・関連計画 (3)公共施設整備にかかる計画	脱炭素について推進されていないが、長くもたせる公共施設として先導されたいことから、その点に触れてはどうか。	P22	3今後の主な検討事項	検討事項のうち「施設計画」に「環境面への配慮」を追加。
P8	2 整備方針 (2)市民会館代替機能の検討	ホール機能が外れたこともあり、文化創造の部分が薄まっているように感じる。 ストリートやロビーなどでも文化芸術、創造活動はできる。	P10	3新施設の整備方針 (3)各空間に期待する役割と想定される事業	表7の各空間の機能に「共用部・屋外」を追加。
P9	3 新施設の整備方針 (2)新施設の基本的な役割 ⑤地域経済の発展に寄与する施設	一番大切なのは地域経済に寄与することで交流人口を増やす。スポーツやイベントは手段であり、目的は、どういうエリア開発をしていくか、まちづくりをしていくか。	P8	3新施設の整備方針 (1)新施設整備方針	計画素案の方針としても「基本構想の導入機能を整理した整備方針のとおり、スポーツ等のにぎわい交流、新たな魅力の創造によって活性化を図る」としている。
P10	3 新施設の整備方針 (3)各空間に期待する役割と想定される事業	交流の場所をつくることで市民の文化創造を育むという文言があると良い。	P10	3新施設の整備方針 (3)各空間に期待する役割と想定される事業	表7の「共用部・屋外」の「期待する役割と想定される事業」として、「気軽に人が集まり交流が育まれる場」を追加。
P10	同上	屋外空間をどのように活用していくかは重要なポイント。	P10	同上	表7の各空間の機能に「共用部・屋外」を追加。

P10	同上	各空間の利用方法について、実例を挙げて記載してはどうか。	P10	同上	表7に「競技大会、MICE、文化スポーツの練習」などを追記。さらなる具体例は、サウンディング調査後の応募要綱等に反映することを検討。
P10	同上	①敷地周辺との関係をどう考えるか。 駐車場は同敷地では収まらないので、周辺である程度確保できるのか、今後詰めていってほしい。 ②運営の観点で、利用が想定される各種団体の利用と要望についてヒアリングが必要。 ③Bリーグ以外では興行的に厳しいという指摘もあり、地元が使っていくことが大事。	P22	3今後の主な検討事項	①検討事項のうち「交通対策」で今後検討。 ②③サウンディング調査の際に検討。
P12	4新施設の事業方針 (1)いまある「松山らしさ」を“発信し”、新たな「松山らしさ」を“創り出す”	100年後はどうなっているのか考え、今の「松山らしさ」を大切にしつつ、新たな「松山らしさ」を未来志向で捉えた公募条件とすることで、関心を持たれる基本計画となり、公募につながる。	—	—	今後のまちづくりに向けた姿勢として捉えて、進めていく。
P12	同上	「松山らしさ」はお接待であると思う。	P12	4新施設の事業方針 (1)いまある「松山らしさ」を“発信し”、新たな「松山らしさ」を“創り出す”	「おもてなしの心を感じられるエリア」を追記。

P12	同上	①松山に訪れる皆様の記憶に残り、市民が誇れるランドマークとなるため「松山らしさ」は重要であるが、具現化するのは難しくもある。「おもてなしのまち」として、群を抜いて利用しやすいという視点もある。 ②地域性に基づいた意匠やデザイン、テクノロジーの導入、観客ファーストの導入。一旦整備して終わりではなく、アップデートし続けるスタンスで選ばれる施設へ。	P12	同上	①「おもてなしの心を感じられるエリア」を追記。
			P15	2各室の仕様について (1)基本事項	②「時代のニーズに合わせられる施設を目指します」と追記。
P12	同上	JR松山駅は松山の顔の部分。新しい松山らしさの中に景観についても含めてもらいたい。	P12	4新施設の事業方針 (2)みんなが“つながり”、いつも楽しいアリーナを演出する	「市民に愛着を持たれる景観やデザインとし」を追記。
P12	4新施設の事業方針 (2)みんなが“つながり”、いつも楽しいアリーナを演出する	①松山は周りの中予地域を含めた東予・南予地域のリーダーである観点 ②松山の将来、愛媛の将来を大きい観点でいう以上、それぞれの立場で頑張る。それぞれが連携して楽しさを演出。	P12	同上	①「市民をはじめ、広域から人々を惹きつけるようなコンテンツを」を追記。 ②(2)のとおり「地域のさまざまな団体等が一体となって」に包含される。併せて、サウンディング調査の際にも検討。
P12	同上	経済団体を中心に地元企業が主体となって新しい施設を作り、松山らしさを発信する動きを期待する。	—	—	サウンディング調査の際に検討。
P12	同上 (2)(3)含む	計画の内容は良いが、「松山らしさ」の発信やアリーナの演出、安全安心など事業者がどこまでしないといけないのか、役割分担の整理をすること。	—	—	サウンディング調査の際に検討。

P12	同上 (2)(3)含む	アリーナだけでなく、まちの連携を考えると、松山駅の東と西の地域のまちづくり、数十年先を見越して検討していけると良い。トータルのまちづくりのイメージを大事にして、地域の発展のためにアリーナを考えていくことが重要である。	—	—	今後のまちづくりに向けた姿勢として捉えて、進めていく。
P13	1 建設予定地	アンダーパスの整備時期について記載してはどうか。	—	—	基本計画策定段階では、整備時期は不確定のため現記載のまま。
P15	2各室の仕様について	MICE について、屋上空間の活用など民間のアイデアをいただけるような表記をされたい。	P10	3新施設の整備方針 (3)各空間に期待する役割と想定される事業	表7に、「経済効果を生み出す場」として「MICE などのコンベンション」を追記したほか、各空間に「共用部・屋外」を追加。 具体的な活用案は、サウンディングの際に検討。
P15	同上 (2)メインアリーナ	メインアリーナは「基本的にプロが利用することを想定」とあるが、アマチュアや全国レベルの大会にも国際大会や全国大会があり、それらの利用を考慮し、偏らないようにしてはどうか。 →他の委員より、B リーグ向けの書きぶりになっていると意見もあり。	P10 P15	3新施設の整備方針 (3)各空間に期待する役割と想定される事業 2各室の仕様について (2)メインアリーナ	表7のメインアリーナに、「大規模な競技大会」を追記。 「プロが優先して利用することを想定」と修正。
P19	1 施設規模と整備費	他都市の整備費のうち、年間の維持管理費について記載してはどうか。	—	—	各都市が、維持管理費については情報非公開で、記載できないため、導入可能性調査等で検討。

P20	2 事業手法	①民間事業者と一緒に進めていくうえで、行政の財政負担を減らすためではなく、民間のノウハウをいかすことが重要である。 ②基本計画に幅を持たせているが、条件設定などサウンディングをしながら詰めてもらいたい。	P20	2 事業手法	①事業手法に、「新施設の整備に当たっては、民間事業者のノウハウを活用することで、施設の機能及びサービスの質の向上とともに、整備運営費用の縮減に取り組みます」と修正。 ②サウンディング調査の際に検討。
P20	同上	事業化に向けて、どの段階でどのように民間事業者の意向を集約していくのか、具体的な展開や成功事例はあるか。	—	—	基本計画策定後、サウンディング調査やPFI導入可能性調査の実施を予定しており、その中で方針を決めていきたい。
P22	3 今後の主な検討事項	周辺の渋滞についてもどのように対策を練っていくのか検討すべき。	P22	3 今後の主な検討事項	検討事項のうち「交通対策」で今後検討。
P22	同上	対象敷地は車両基地跡地となるが、まちづくりとして周辺敷地の容積率の緩和や用地制限などをどのように設定するのかなど、市がまちづくりの方針を示す必要がある。	—	—	駅東側も含めたサウンディングの際に検討し、その中で方針を決めていきたい。
P22	同上	バリアフリーに配慮した駐車場計画の想定用地はあるのか。	—	—	バリアフリー法に基づき、車椅子利用者用駐車スペースを確保する。できるだけ施設に近接できるよう、サウンディングの際に検討。
P22	同上	プロの利用、市民の利用、公的利用。利用のバランスをできるだけ整理しておいたほうがよい。	—	—	サウンディング調査の際に検討。

P22	同上	アリーナだけで地域の魅力になるかを考えたとき、最終的には地域の価値が上がる事が評価されると考える。まちのイメージがあると、リンクして提案しやすくなる。アリーナだけでなく、周りの開発イメージもあれば考える。	—	—	サウンディング調査の際に検討。
P22	同上	5000 人分の駐車場は必ずしも必要ではなく、歩きを入れて、まちを周遊・滞留させる工夫が必要。	—	—	サウンディング調査の際に検討。